

第62回日本学校農業クラブ全国大会に参加しました

10月25日（火）から27日（木）までの3日間、第62回日本学校農業クラブ（FFJ）全国大会 平成23年度長崎大会が長崎県で開催されました。

この農業クラブ全国大会は、農業高校生の甲子園と呼ばれる大会で、プロジェクト発表会、意見発表会、平板測量競技会、農業鑑定競技会、家畜審査競技会、大会式典などが行われ、日本全国から約4000人のクラブ員が集まり、日頃の農業学習の成果を競い合います。本校からは、清水毅夫教諭の引率・指導のもと、平板測量競技会に、2年生の岩田明子さん、加堂汐梨さん、木本千晶さんの3名が大阪府代表として出場しました。平板測量競技会は、干拓地の中に広がる広大なグラウンドを有する諫早市営ソフトボール場で行われ、4つのグループに分かれて競技が進められました。最終グループとなった本校生たちの競技には、何とか応援に駆け付けたのですが、競技内容の情報漏えいを防ぐため非公開で行われました。競技の結果、本校生たちは入賞を逃しましたが、休みの日にもかかわらず、測定の練習に取り組んできた努力と熱意に対し敬意を表したいと思います。よくがんばりました。

この全国大会の最大のイベントである大会式典は、最終日、大村市体育文化センター（シーハットおおむら）メインアリーナで行われ、飛び入り出演のさだまささんがトークと歌を披露し式典に花を添えてくれました。さださんは、FFJのイメージソングの作者で、長崎県出身ということもあり、大会実行委員の生徒の参加依頼に応じたとのことでした。式典では、各種競技会の表彰等が行われました

式典終了後、生徒たちは大阪への帰路についてなのですが、私たち校長は、ハウステンボスに移動し、全国農業高等学校長協会総会と研究協議会に参加しました。

さて、平成28年度には、この日本学校農業クラブ全国大会を大阪で開催することが決まっています。すでに大阪府の農業系の高校（園芸・農芸・能勢・枚岡樟風・貝塚）では、準備組織を結成したところです。このような大きな大会を農業クラブ員と農業教員の少ない大阪で開催することには、大きな不安がありますが、大阪らしい大会になるよう準備を進めていきたいと思います。



2年1組 木本千晶

私たちは10月26日の農業クラブ連盟全国大会に出場しました。私たちは測量の部で出場しましたが、全国からは意見発表や、プロジェクト発表などで来ている人もたくさんいて、あまりの多さにびっくりしました。どこも強そうな学校ばかりで圧倒されましたが、他県の学校の人と話したりして、少し緊張がほぐれました。

大会当日はどのチームも落ち着きが無くなり、私たちも少しずつ緊張感がでてきました。試合直前の練習でも、いまひとつうまくいなくて不安しかありませんでした。そして、いよいよ競技本番となると、緊張もピークでどうしようかと思いました。でも、なんとか自分達のペースで行くことができました。風も強くて、他の学校の空気に飲み込まれつつも、今までの中で一番安定していて、とてもよかったと思います。

結果は入賞できずに終わってしまい、反省しないといけないところもありましたが、とてもいい経験ができたと思います。お世話になった先生方ありがとうございました。

2年2組 岩田明子

私は初めて全国大会というものに参加しました。最初は長崎にみんなで行けるという楽しい気持ちでいっぱいでした。長崎空港に着き、まずは人の多さに驚きました。全国大会と言うのはわかっていただけ、こんなにも人が多いものなんだと思いました。そして平板測量競技会の宿泊会場では他県の生徒と同じ部屋になり話をしていると、私達とは気合いの入り具合が違うと思いました。

そして競技当日、私達は午後からの競技だったので、午前中に練習会場で練習を行いました。他の学校のすごさに驚いてしまいました。その時初めて、これが全国大会なんだと思いました。また、半年前から始めた自分たちとは比べ物にならないくらい早いし、的確だとも思いました。

本番は緊張でいっぱいだったけど、今までで一番タイムも良かったし、やったことには悔いはありませんでした。結果はどうであれ全国大会という雰囲気にもふれ、やってきて良かったと思いました。そして来年も全国大会に参加できるようにがんばっていきたいと思います。

2年2組 加堂汐梨

全国大会に出場し、47都道府県（参加49チーム）、測量の部は約200人が参加しました。その中で能勢高校は測量競技会に数年ぶりに出場しましたが、私たちのチームみんなは本番直前でも落ち着いており、さすがだなと思いました。

審判長の開始の合図の後、すべてのチームが一斉に動き出しました。私は精いっぱいやろうと思い、測量用のポールを手に持ち走り出しました。天板等の据え付けも、下げ振りによる求心の取り方もいつもよりスムーズで、他の選手たちの速度についていけていました。ただ、少し経つと他のチームとの差が開き始め、途中焦りもありました。しかし、最終的にはベストタイムが出せました。ですが、速さももちろんのこと、正確さも重視されるため、惜しくも賞は逃してしまいました。

賞は取れなかったものの、その悔しさ以上に最後までしっかりとやりきったという達成感が胸の中をしめしました。

岩田さん、木本さんとともに今まで大阪府予選、全国大会と忙しい中練習をしてきたけど、とてもよい経験をしたと心から思いました。